

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800866		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと敷島		
所在地	山梨県甲斐市大下条425番地1		
自己評価作成日	平成25年12月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成26年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの生活リズムを大切に支援させていただいています。日々の生活の中で「できること探し」をしながらゆったりとした時間を過ごしていただき寄り添うケアを実践しています。セラピー犬「ふく」と日向ぼっこをしたり、裏庭の野菜畑に水やりをして収穫を楽しんでいただいたり、買い物や散歩など何気ない当たり前がいつでもできるように心がけています。利用者様が生きがいがいい役割をもって、いきいきと笑顔いっぱい過ごす事ができるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、新しい住宅が立ち並ぶ一角にあり同一法人の2ヶ所のグループホームを合併し、2年前に新築移転した木造平屋建てのホームである。玄関に入ると中庭の植栽が見渡せ、その中庭を囲むように各ユニットの居室が配されている。敷地内に併設されているデイサービスの利用者家族や近隣の住民との近所づきあいも自然な形で培われている。職員は地域密着型サービスの意義や役割を十分に理解しており、全員で話し合っって「地域に解け合い、生き生き暮らし、気心知れた仲になる」という理念を作り上げた。この理念を基に利用者にとっての安全な環境作り、本人本位の生活リズムを大切に心の通った支援がなされており、利用者は安心して安定した生活を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームふるさと敷島

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、全職員が理解し日々、利用者とのかかわりの中で心がけている。	事業所独自の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、全職員が理解し日々、利用者とのかかわりの中で心がけている。	事業所の理念に加え、地域密着型サービスの役割や意義を踏まえた理念を全職員で作り上げた。職員はこの理念に常に立ち戻って利用者のその人らしさを引き出し一人ひとりに寄り添う支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入らせていただき、季節ごとの行事に参加したり、日常生活の散歩や買い物などを通し地域の方々との会話や交流を大切にしている	自治会に入らせていただき、季節ごとの行事に参加したり、日常生活の散歩や買い物などを通し地域の方々との会話や交流を大切にしている	自治会に加入し、夏祭りの神輿の休憩所を引き受けたり、地域活動にも参加できるよう努力している。日頃から近隣の住民との交流に努めており、下校時の児童、生徒が気軽に立ち寄り児童擁護施設の子供たちとの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職場体験を受け入れたり、認知症専門医による「認知症への理解」として地域の方々を集め講習会を開催した。	学生の職場体験を受け入れたり、認知症専門医による「認知症への理解」として地域の方々を集め講習会を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ二ヶ月に一度運営推進会議を開催している。参加者それぞれの立場から意見を頂きその内容について職員会議で検討し取り組んでいる。	ほぼ二ヶ月に一度運営推進会議を開催している。参加者それぞれの立場から意見を頂きその内容について職員会議で検討し取り組んでいる。	事業所に接する2地区の民生委員が運営推進会議のメンバーになっており、細かな地域の情報を得ることにつながっている。講師を招いての研修の機会を持つなど、より充実した会議になるよう取り組み、そこでの意見をサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。その他日常業務の中でサービスに関しての不安や不明な点などがあった場合は都度、連絡をとり助言をいただいている。	運営推進会議に参加していただいている。その他日常業務の中でサービスに関しての不安や不明な点などがあった場合は都度、連絡をとり助言をいただいている。	同一敷地内にはディサービスがある関係で、市包括支援センターや長寿推進課に、現場の実情や問題など伝える機会はある。市担当者と事業所は互いに情報を共有し課題解決に向け連携して取り組む協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない！という信念を全職員が理解し実施している。	身体拘束はしない！という信念を全職員が理解し実施している。	全職員が、スピーテロック、服薬による行動制限、徘徊への対応など身体拘束の内容を十分に認識している。一日中徘徊する、ひとりの利用者に対応するため職員を増やすなど事業所トップが方針を明確にして、全職員で共通の意識を持って取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修会を行っている。他施設で実際におきた虐待のケースなどをもとに意見交換を行っている。職員全員が危機感を持ち虐待防止に努めている。	虐待について研修会を行っている。他施設で実際におきた虐待のケースなどをもとに意見交換を行っている。職員全員が危機感を持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し施設内での勉強会を行っている。後見人制度を活用している利用者様もいる。	権利擁護に関する研修会に参加し施設内での勉強会を行っている。後見人制度を活用している利用者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時及び改定時には書面と口頭で説明している。疑問や不明な点があった場合には、いつでも連絡していただけるようご家族に伝え、その際には速やかに対応している。	入所時及び改定時には書面と口頭で説明している。疑問や不明な点があった場合には、いつでも連絡していただけるようご家族に伝え、その際には速やかに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先を書面・口頭で説明し理解していただいている。	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先を書面・口頭で説明し理解していただいている。	家族の面会時や受診結果を電話で報告する時など利用者の様子を伝えながら、要望・意見を汲み取っている。家族が気軽に要望を職員に言える雰囲気づくりに努めており、信頼関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月実施し、意見・要望を自由に申し合う機会をつくっている。職員と代表者及び管理者との信頼関係があり、気軽に意見を出せる関係ができている。	職員会議を毎月実施し、意見・要望を自由に申し合う機会をつくっている。職員と代表者及び管理者との信頼関係があり、気軽に意見を出せる関係ができている。	理事長・管理者は職員と一緒に現場に立ち、日常的に意見・提案は出されている。加湿器・日用品などの備品の購入も直ぐに対応している。出された意見の内容によっては職員会議で話しあったり、またその中で出される要望もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績および勤務状況を把握し、給与水準等、向上心を持って働くことが出来るよう職場の環境の整備に努めている。	職員の実績および勤務状況を把握し、給与水準等、向上心を持って働くことが出来るよう職場の環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に積極的に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず全て勤務扱いで受講している。	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に積極的に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず全て勤務扱いで受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修などを通じ、交流を図り、意見交換を行っている。他のグループホームの見学をさせていただき参考にしたり、職員同士の意見交換などに役立っている。いい刺激になっている。	グループホーム協会の研修などを通じ、交流を図り、意見交換を行っている。他のグループホームの見学をさせていただき参考にしたり、職員同士の意見交換などに役立っている。いい刺激になっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人に思いや不安、希望などについてゆっくり話を聞いている。新しい環境への不安を少しでも取りのぞけるよう、ゆったりとした時間を作り工夫している。	入所前には本人に思いや不安、希望などについてゆっくり話を聞いている。新しい環境への不安を少しでも取りのぞけるよう、ゆったりとした時間を作り工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族に会い、利用者様本人の現在の状況やご家族の思い要望、不安を聞き、出来る限り思いに添えるよう支援させていただくことを伝えている。特に入所当初は生活状況、体調などこまめに報告している。	入所前にご家族に会い、利用者様本人の現在の状況やご家族の思い要望、不安を聞き、出来る限り思いに添えるよう支援させていただくことを伝えている。特に入所当初は生活状況、体調などこまめに報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話をよく聞き、管理者・ケアマネジャー・職員が相談内容を確認、把握している。その後、具体的な支援内容を検討しサービスにつなげている。	本人、家族の話をよく聞き、管理者・ケアマネジャー・職員が相談内容を確認、把握している。その後、具体的な支援内容を検討しサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様一人ひとりの生活暦や心身状況を把握した上で日々、支援している。人生の先輩である利用者様を尊重し、職員は常に学ぶ姿勢で共に生活している。	職員は利用者様一人ひとりの生活暦や心身状況を把握した上で日々、支援している。人生の先輩である利用者様を尊重し、職員は常に学ぶ姿勢で共に生活している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員が同じ気持ちで利用者様を支えられるよう家族の思いに耳を傾け、情報交換している。面会時には家族の時間や空間を大切に過ごして頂けるよう心がけている。	ご家族と職員が同じ気持ちで利用者様を支えられるよう家族の思いに耳を傾け、情報交換している。面会時には家族の時間や空間を大切に過ごして頂けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人と大好きなカラオケに出かけたり、行きつけのお店に買い物に行くことを楽しみにしている方もいる。贈り物や手紙を出すなどいつでも対応できるよう支援している。	昔からの友人と大好きなカラオケに出かけたり、行きつけのお店に買い物に行くことを楽しみにしている方もいる。贈り物や手紙を出すなどいつでも対応できるよう支援している。	入居時に本人の生活背景の把握に努め、その後生活する中で得た情報は介護記録に記入している。昔から利用している美容院に通ったり、お墓参りや友人との外出など、これまでの習慣や関係を継続できるよう積極的に支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者様には職員が寄り添い、他の利用者様とのかかわりのきっかけになるよう支援している。	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者様には職員が寄り添い、他の利用者様とのかかわりのきっかけになるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様の家族と連絡をとり交流がある。	退所された利用者様の家族と連絡をとり交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや希望を会話やご家族のお話の中からくみとり把握し職員間で情報を共有している。	利用者様の思いや希望を会話やご家族のお話の中からくみとり把握し職員間で情報を共有している。	職員は日頃から利用者の思いや意向に感心をはらっており介護記録にも「本人の言葉」「家族との会話」などの項目がある。職員は一人ひとりを熟知しており思いを伝えることが困難な利用者には声かけの機会を増やすなどして汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話を通し、馴染みや安心のヒントが得られるように努めている。過去のサービス利用などがある方は事業所から情報をいただくことで利用者の「これまで」を知ることもある。	日常生活の会話を通し、馴染みや安心のヒントが得られるように努めている。過去のサービス利用などがある方は事業所から情報をいただくことで利用者の「これまで」を知ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状況等、個別記録に記録し、生活リズムや変化等を把握している。定期的にカンファレンスを行い、「できること探し」に取り組んでいる。	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状況等、個別記録に記録し、生活リズムや変化等を把握している。定期的にカンファレンスを行い、「できること探し」に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から意見や要望を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを実施し意見を出し合っている。一人ひとりの気持ちや望むことを重視した介護計画を作成している。	ご本人やご家族から意見や要望を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを実施し意見を出し合っている。一人ひとりの気持ちや望むことを重視した介護計画を作成している。	3か月に1度、見直している。月1回のケース会議は全職員が意見を出し合いモニタリング、カンファレンスを行なっている。何よりも「利用者主体の暮らし」を大切に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADL状況はもちろん、食事摂取量・バイタル・排泄の記入及び言葉や表情を具体的に記録し把握している。日々の中での気づきや工夫点は記録し会議の中でも情報を共有している。介護計画の見直しにも大いに役立っている。	ADL状況はもちろん、食事摂取量・バイタル・排泄の記入及び言葉や表情を具体的に記録し把握している。日々の中での気づきや工夫点は記録し会議の中でも情報を共有している。介護計画の見直しにも大いに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望による外出など状況に応じて出来る限り支援している。夕方から不穏になってしまう利用者様に対しては1対1で対応し柔軟に取り組んでいる。	個々の希望による外出など状況に応じて出来る限り支援している。夕方から不穏になってしまう利用者様に対しては1対1で対応し柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩やドライブをしながら地域の商店で買い物を楽しむこともある。地域の美容院や理髪店を利用し顔なじみになり、会話を楽しみにしている方もいる。	日々の散歩やドライブをしながら地域の商店で買い物を楽しむこともある。地域の美容院や理髪店を利用し顔なじみになり、会話を楽しみにしている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診を重視し、ご本人、ご家族の希望に応じたかかりつけ医を決めていただいている。受診は基本的に家族対応だが希望や状況に応じ、職員が対応している。受診結果は必ずご家族に報告し情報を共有している。	入所前からのかかりつけ医の受診を重視し、ご本人、ご家族の希望に応じたかかりつけ医を決めていただいている。受診は基本的に家族対応だが希望や状況に応じ、職員が対応している。受診結果は必ずご家族に報告し情報を共有している。	入居前からの、かかりつけ医と事業所への往診医による診療を受けている利用者があるが、本人、家族の希望で決めている。いずれの場合も受診結果の情報は事業所と家族間で共有している。歯科は訪問診療を受け、その他の専門診療科目は近隣の医療機関に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師と情報交換しながらケアを行っている。	施設の看護師と情報交換しながらケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には職員が面会に行き、環境の変化による精神的不安の解消に努めている。病院との情報交換を行い、早期退院や退院後のケアがスムーズに行えるよう家族を含め、都度検討している。	入院の際には職員が面会に行き、環境の変化による精神的不安の解消に努めている。病院との情報交換を行い、早期退院や退院後のケアがスムーズに行えるよう家族を含め、都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や折りにふれ、重度化及び終末期についてご家族に希望を聞き、事業所として出来る事、方針をお話している。職員間で勉強会を実施している。	入所時や折りにふれ、重度化及び終末期についてご家族に希望を聞き、事業所として出来る事、方針をお話している。職員間で勉強会を実施している。	入居時に事業所の出来ること、出来ないことを率直に説明して事業所の方針を伝えている。その後も状況変化に応じて家族と繰り返し話し合いの機会を持っている。看取りに至った経験はないが、現在ターミナルケアに準ずる支援を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員指導のもと、緊急時対応の指導を受け訓練を実施している。	看護職員指導のもと、緊急時対応の指導を受け訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し、緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。	昼夜を想定し、緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。	年間2回、訓練を行っている。昼の避難訓練では、消火器や火災通報装置の操作、避難経路を使つての避難を行い、夜間を想定した訓練では実際に職員の緊急連絡網を使いそれぞれの所要時間を計るなど具体的な訓練を行っている。口頭ではあるが近隣住民への協力依頼もしてある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心がけ実施している。入浴や排泄、着衣交換時には特にまわりに気をくばりプライバシーを損なわないよう工夫している。	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心がけ実施している。入浴や排泄、着衣交換時には特にまわりに気をくばりプライバシーを損なわないよう工夫している。	職員の離職率が低く利用者との信頼関係がしっかりと築かれている。自尊心を傷つけない言葉使いや環境への配慮、利用者一人ひとりの尊厳を守るなど精神面の配慮もきめ細くくなされている。個人情報に関する書類も厳重に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりにあった自己決定ができる環境づくりをしている。出来る限り時間にゆとりを持ち「待つケア」を心がけ実践している。	利用者様一人ひとりにあった自己決定ができる環境づくりをしている。出来る限り時間にゆとりを持ち「待つケア」を心がけ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物など可能な限り、ご本人の希望に添った時間やタイミングでの支援をしている。	散歩や買い物など可能な限り、ご本人の希望に添った時間やタイミングでの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により帽子や小物でのおしゃれを楽しんでいただいている。ジーンズを好んでおしゃれにはきこなしている方もいる。	希望により帽子や小物でのおしゃれを楽しんでいただいている。ジーンズを好んでおしゃれにはきこなしている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事を提供し、職員も同じテーブルで会話を楽しみながら食べている。テーブルをふいたり片付けなど個々の力に応じて一緒に行っている。	一人ひとりに合わせた食事を提供し、職員も同じテーブルで会話を楽しみながら食べている。テーブルをふいたり片付けなど個々の力に応じて一緒に行っている。	併設のデイサービスの調理職員が調理し、ホームの台所・食堂に運ばれ、ご飯、味噌汁などはこの台所で調理している。食材の下ごしらえやテーブル拭き、食事の挨拶など利用者の力を引き出すよう配慮され職員と一緒に同じ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態を提供している。食事量・水分量は職員が把握している。その日の状態や気候等により、量や内容など対応している。	一人ひとりにあった食事量、食事形態を提供している。食事量・水分量は職員が把握している。その日の状態や気候等により、量や内容など対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、管理をいっている。毎週歯科医による訪問受診、口腔ケアの指導をいただいている。	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、管理をいっている。毎週歯科医による訪問受診、口腔ケアの指導をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。誘導時間を検討し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握している。誘導時間を検討し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	排泄の失敗やおむつ使用を減らすため職員は一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は全利用者にてトイレ誘導の排泄支援がされ、夜間帯も一人を除きトイレ誘導が行われている。排便についても出来る限り運動や食事でコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防も含め、毎日軽体操を実施している。繊維食料やヨーグルトの提供、腹部マッサージなどを行い、必要に応じて主治医に相談し対応している。	便秘予防も含め、毎日軽体操を実施している。繊維食料やヨーグルトの提供、腹部マッサージなどを行い、必要に応じて主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の決まりはなく自由に入浴できる。	曜日の決まりはなく自由に入浴できる。	お風呂の準備は毎日しており、利用者の希望に沿って自由に入浴できる。入浴を嫌う利用者にはその気持ちを理解した上で話しを変えたり、職員が入れ替わって誘うなど無理強いないよう工夫をして入浴支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や状態に合わせて昼寝を促したり好きな場所、時間でくつろいでいただいている。夜、眠れない方には日中の活動でリズムを作れるよう散歩や外気浴をしている。昔からの習慣でラジオを聴きながら気持ちよく眠っている方もいる。	希望や状態に合わせて昼寝を促したり好きな場所、時間でくつろいでいただいている。夜、眠れない方には日中の活動でリズムを作れるよう散歩や外気浴をしている。昔からの習慣でラジオを聴きながら気持ちよく眠っている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。身体状況の変化により、薬の内容に変更があった場合は都度、管理者が徹底している。	利用者様の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。身体状況の変化により、薬の内容に変更があった場合は都度、管理者が徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族の話や生活歴の中から楽しみごとになる事を見つけ支援につなげている。毎朝、掃除をする方、テーブルをふいてくださる方など役割をもってメリハリのある生活が出来るよう支援している。	ご本人、ご家族の話や生活歴の中から楽しみごとになる事を見つけ支援につなげている。毎朝、掃除をする方、テーブルをふいてくださる方など役割をもってメリハリのある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、お墓参りなどそれぞれの希望やペースに合わせて外出している。知人とカラオケにでかけたり、誕生日パーティを楽しむ方もいる。	買い物や散歩、お墓参りなどそれぞれの希望やペースに合わせて外出している。知人とカラオケにでかけたり、誕生日パーティを楽しむ方もいる。	日常的に近くの公園へホームのセラピー犬といっしょに散歩をしている。利用者の体調や希望に合わせて、ドライブや買い物、お花見などにも出かけている。家族との外食、墓参り、友人とのカラオケなど個々の外出にも必要な部分を事業所としても支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望と力に応じ、家族の理解を頂きながら出来る限り支援している。	希望と力に応じ、家族の理解を頂きながら出来る限り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙や季節の贈り物など支援している	家族や知人からの手紙や季節の贈り物など支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は快適に過ごすことが出来るよう、整理し、季節に応じた飾りつけで会話がはずんだり、笑顔のきっかけになるように工夫している。	共用の空間は快適に過ごすことが出来るよう、整理し、季節に応じた飾りつけで会話がはずんだり、笑顔のきっかけになるように工夫している。	西ユニットと東ユニット共有の居間・食堂の中心には対面式のキッチンがあり、おやつ作りや食事作りの様子で五感を刺激することが出来る。整理整頓された共用空間は清潔で、安全にも配慮されている。散歩の道すがら地域の方からプレゼントされた梅の蕾が活けられ、季節と自然の力を感じ取れるよう配りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りこなれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に何箇所かソファがあり、思い思いに自由に過ごすことが出来る空間がある。	ホーム内に何箇所かソファがあり、思い思いに自由に過ごすことが出来る空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意向に添い、使い慣れた馴染みのものを持ってきていただいている。	ご本人やご家族の意向に添い、使い慣れた馴染みのものを持ってきていただいている。	エアコン、物入れ、温度計は事業所で用意されている。ベッド、タンス、テレビなど利用者の好みの物で使い勝手の良い部屋が作られている。仏壇や遺影なども持ち込まれ安心してくつろげるようその人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態にあわせた環境になるよう、都度職員間で話し合い、必要に応じて安全に過ごしていただくための工夫をしている。	個々の状態にあわせた環境になるよう、都度職員間で話し合い、必要に応じて安全に過ごしていただくための工夫をしている。		